

令和3年度第2回渋川市子ども・子育て会議

(書面会議) 会議録

項目	内容
開催期間	令和4年2月14日(月)から 令和4年3月14日(月)まで
開催方法	委員あて資料を送付し、別添「意見書」の提出により開催
出席	16名
欠席	4名
議題	1 令和4年度渋川市における子育て関連事業について 2 教育・保育施設の利用定員について 3 その他
質疑応答	<p>(1) 公立幼稚園はこども園に移行する方針であると思うが、進んでいるのか、見通しはどうか。</p> <p><回答> 市では、令和元年5月に策定した「渋川市公立保育所及び幼稚園型認定こども園移行方針」に基づき、子ども・子育て支援の充実を図りながら、認定こども園への移行について、計画的に取り組んでいます。令和2年4月1日に開園した、伊香保こども園及びかに石こども園は、この方針に基づき移行したものです。</p> <p>認定こども園の移行について、民間も含めた教育・保育施設の定員と市内の児童数との充足等を見極めつつ、設置類型を勘案しながら、検討してまいります。</p> <p>(2) 「子ども家庭総合支援拠点」は具体的にどのように活用されているのか。</p> <p><回答> 市内に住む全てのお子さんとその家族及び妊産婦に対して、専門的な相談や関係機関と連携した情報提供、訪問等による支援を行っています。</p> <p>具体的には、既存の家庭児童相談室と要保護児童対策地域協議会を核に支援体制を体系づけたことで、これまで以上に</p>

総合的かつ継続的な支援を行っています。

この拠点の整備により、支援を必要としているお子さんやその家族に対し、切れ目なくよりきめ細かな対応を行っています。

(3) 渋川市内にある認可外保育施設の数や利用人数は。

<回答>

施設名	利用定員	利用人数
①マミーランド保育園	5人	5人
②群馬ヤクルト販売渋川サービスセンターキッズルーム	14人	3～4人
③みつばち保育園	4人	3人
④つばくろ保育園	10人	5～7人
⑤伊香保温泉旅館協同組合託児所	5人	(休止中)

※ 指定した期日内において、委員16名から返信があったため、「渋川市子ども・子育て会議運営要綱」第4条第2項の規定に基づき、会議は開催されたものとする。

意見等

1 令和4年度渋川市における子育て関連事業について

○「恋活プロジェクト事業」は、少子化対策という位置づけと考えられるようだが、「子育て関連事業」に該当するのだろうか。「婚活事業」は、「結婚はすべきもの」「子どもは持つ(産む)べきもの」という固定観念を後押しする危険もあるようにも思われるので、助成を行う場合、このような発想に陥らないよう注意が必要と考える。

○関連し合う事業等で情報交換を行い、柔軟性をもって取り組んでもらいたい。

○子育てに関する事業を行うことで、保護者の孤立を防ぎ、参加者同士で話し相手ができ、相乗効果をもたらすと思う。

○最近の報道では幼い子どもが被害者となる事件も多いので、ぜひ事業の充実をお願いしたい。

	<p>○「放課後児童クラブ相談員」の設置はとても良いと思う。学童の知識があり、現場に来て、見て、コンサルテーション等をしていただける人選をお願いする。また、放課後児童クラブ運営主体へしっかり周知し、相談窓口として気軽に活用できる場としてほしい。</p> <p>○コロナ禍により、子育て支援センターが閉鎖していたり、検診における会話が制限されたりしている状況である。話し相手がいらない、仲間づくりができない等など、実際に孤立している方の話を聞いている。</p> <p>○子育て中の親（特に1人目の子を抱える方）の支援の充実のため、他市等を参考に母子等の見守りの取組はできないか。</p> <p>○「手話あそび体験事業」「はじめての英語ふれあい事業」「英語ふれあい支援事業」は、子どもたちが体験できる良い事業であるが、英語が話せるようになる、手話が使えるようになるなどの成果を求め過ぎないでほしい。</p> <p>○「はじめての英語ふれあい事業」「英語ふれあい支援事業」は、子育て支援とは目的が異なるように思う。この事業に反対しないが、幼児の生育を支えるに当たって注力すべきはそこなのか疑問を感じる。</p>
意見等	<p><u>2 教育・保育施設の利用定員について</u></p> <p>○3歳児入園希望者が4、5人の公立幼稚園もあると聞く。集団としてこの人数だと厳しい状況である。市内の公立幼稚園も同じようなことは今後考えられると思う。</p> <p>○公立の保育所や幼稚園を残してほしい。</p> <p>○懸案事項であった保育所等の適正配置について結論が出ていないので、意見することが難しい。</p>
意見等	<p><u>3 その他</u></p> <p>○専門性を持つ保育者は、変化が急速で予測が困難な時代を生き抜く力を乳幼児期から確実に育むための保育を取り入れていくことが大切だと思う。</p> <p>○保育所だから、幼稚園だから、こども園だからと一線と引</p>

くのではなく、地域としてのコロナ禍で気がついた「根本」をもう一度考える必要があると思う。

○子どもが減っている中、教育・保育施設は適正な定員に縮小、統廃合を行う時期が来たと思う。

○住みやすい渋川市、魅力ある渋川市になり、移住を促進し、人口を減らさないシステムを作ることが大切だと思う。

○子どものしつけに関する悩みや不安を抱える親は多い。きめ細かなアドバイスを行うことのできる子育て経験者等と子育て世代がつながる機会を作ってほしい。

○小中学校の児童生徒の不登校者数が増え、子どもたちの多様な学びを保障する場が少ないように思う。特に渋川市にはフリースクールが一つもない。

○子どもたちの居場所作りが必要である。子育て支援センターが児童館のように機能するのも良いかもしれない。